

恵那市地域医療ビジョン計画策定委員会作業部会（中間報告）

合同作業部会【経営・地域人材・施設等整備・技術/ICT 部会】

開催日	第 5 回 令和 6 年 11 月 18 日（月曜日）
メンバー	国保上矢作病院：看護部長、訪問看護管理者、外来看護師、技術部長、薬局長、理学療法士、臨床検査技師、事務長、医事課係長、医療相談員、 国保岩村診療所：主任主査、看護師長、臨床工学技士、理学療法士 オブザーバー：市立恵那病院事務部長・地域包括支援センター副所長 地域医療課：病院・診療所担当係長
国保上矢作病院を維持・継続するための方向性	
(1) 意見	【慢性期患者の受入】 ・上矢作病院は稼働病床 52 床で地域包括ケア病床は 37 床運用しているが、最長 2 カ月しか入院できない。今後、医療ニーズを考えていくと療養病床に変えていけないといけないと思う。 ・病床の転換期の時期であり、認知症の患者も増加している、病床数も含めて見直しが必要と思う。 ・在宅医療や慢性期の入院施設、予防医療が必要となる。入院施設がなくなると患者の行き場のない人が出る。 ・職員の人員や経営をみていけないといけないことはわかるが、どこも受けてくれない人（慢性期の患者）をどうするか考えないといけない。 ・療養病床に転換するという話があったが、療養を行うには看護補助員が必要となるが、働く人がいないのが現実である。療養病床は診療報酬の単価が落ち、赤字の要因でもある、どの規模で受けられるかよく考えないといけない。定員が 50 人でも 30 人でも、看護師の人員は変わらない。 【在宅医療】 ・上矢作病院は訪問看護を併設しているため、退院時の在宅へ帰る時に患者の連携がとりやすい。上矢作町だけでなく、近隣の岩村町、山岡町などの患者にも必要なこと。 ・民間の訪問看護事業所では、タクシーの免許（二種免許）をもっていることが必須となっていてところもある。いざとなれば、自分が患者さんを乗せて病院へ連れて行くこともある。市でも可能であればできると良い。 ・訪問看護ステーションがあって、出ていく医療になっても、いざ状態が悪くなったら入院する場所が必要ではないか。 ・小規模多機能型訪問看護があるといい。医者がいなくても開設が可能となる。市が開設している所はないため市で開設できると良い。 【予防医療】 ・予防医療も大事な事で、健康で長くいられるか、食事や運動などその視点も大事。元気で動ける時期から、予防していくことが大事となる。地域全体で取り組む必要もある。 ・予防を考えれば、地域へ出向くことも大事で予防医療につながると良い。

【医療ニーズ関係】

- ・ 上矢作町在住の人は、日中町外で働く人が多いので受診の機会を増やすため夜診（受付時間 17：00～18：30）を行っている。しかし、ここ数年は町内の若い世代が少なく受診患者も少ない。
- ・ 病院も時代の流れで、患者が来る時代から患者の所に出向く時代になっていく。
- ・ 高山市に住む友人の話では、高山市では具合が悪くなると医師が自宅まで来てくれる様にネットワーク化となっている様子。過疎化が進んでいけば、そうして支えていくことが大事。

【ネットワーク関係】

- ・ 医師や看護師の業務を減らすため、自分の資格を活かしたい。
- ・ 健診業務のこれまでのデータがある。毎年の経過がわかるため、他の施設の検査結果がわかるといい。

【透析関係】

- ・ 市内在住の方でも、透析センターに通えず、中津川市のクリニックに通院している人もいる。高齢の透析患者が増えている。市の人は市の医療機関で診たいと思う。一方で医師の確保が難しい。

【移動手段】

- ・ 80 代後半で、病院に近くても移動手段がなく歩いていくこともできない人は、送迎車両が家の前まできてもらうことか、家族がいないと送迎が難しい。

【大規模災害時の対応】

- ・ 有事における看護師の応援体制について検討をしたことがある。検討の中では、日ごろから人事交流をして顔が見える関係を築くことが必要と結論となった。
- ・ 透析センターの災害などの有事のことも考えて、直営医療機関の看護師の人事異動を行い、いろいろできる看護師を増やすことも必要だと思う。人事交流があると、安定した業務になる。他の医師もできると良い。

【施設関係】

- ・ 施設の老朽化が大きな弱みではないか。

【今後の取り組み】

- ・ 5 年後の人口は減少し、職員の退職者も多い、市全体や全国的な話でもある。今のままでは持続的に運営できなくなる。急に来年度職員がいらない為病棟を閉鎖しますでは、市民は困る。小さくしていくことを考えるなら計画的に行うべきで。どう小さくしていくのか。ネットワーク化を進め、連携をとり、医師がどこへ行っても患者情報がわかるよう電子カルテ化は必要。今のままでは、行き詰ってしまう。小さくするけど、どう小さくするか計画することが必要。
- ・ 透析は、将来的には少なくなる可能性があるが、今は増えていく状態。スタッフ不足の問題がある。透析について業務等を知らない人が多く、支援が出来る人材が少ない。人事異動などで人事交流をして、透析業務をできる人を増やしてほしい。

